

平成 30 年度日本救急撮影技師認定機構(JERT)主催救急撮影講習会 in りんくう参加報告

神戸総合医療専門学校 診療放射線科 木村英理

JERT 主催の救急撮影講習会は、年に 5 回開催されていますが、今回の開催地は救急医療の聖地「りんくう総合医療センター」ということで、これはぜひ行かねば！と参加させていただきました。

救急医療に携わる上で必要な診療放射線技師としての専門知識・技術だけでなく、救急医療をチームとして展開していくために必要な考え方など、どの講演も素晴らしい講演で時間があっという間に過ぎてしまいました。急変の前兆である手の湿気や冷感などの「何かちょっとおかしいんとちゃうかな?!」という気づきの大切さ、うちわとホワイトボードを使った酸塩基平衡の代謝機能の説明、某人気 TV 番組もびっくりな「ホンマでっか？」な感染対策、ワークステーションを実際に持ち込み腸閉塞部位検出を実演するなど、どの講演もスライドが見やすく、工夫が随所に見られ、『伝えたい』という気持ちや救急に対する『熱意』が満ち溢れており、真夏の太陽にも負けない激アツな講習会でした。

その中でも特に印象深かったのは、中尾先生の『外傷初期診療における多職種連携』の講演で、軍事と救急医療を絡ませた講演はまるで戦場（初療室）にいるような緊張感を感じました。患者救命のために方向性を決める『戦略』(=ロードマップ)を立て、具体的にどのように治療を行うか『戦術』(=アプローチ)を行い、多職種のスタッフがチームとなりそれぞれやるべきことを迅速性と的確性を持って行う。そのためには、患者到着前からのチーム立ち上げとブリーフィングが大切であること、私たち診療放射線技師がチーム員として行動するためには必要最低限の知識を身につけなければならないこと、そして、「対等な関係」の構築を前提としたチーム員として行動しなければならないこと。如何に早く止血を開始できるか、時間との戦いである外傷初期診療において不用意に出される CT 検査のオーダーに対し、中尾先生は「〇分ほど必要ですが本当に大丈夫ですか？」と提言をしてくれるような「対等な関係」を診療放射線技師に求めており、私たちに対する信頼の厚さに胸が熱くなると同時に、この信頼に応えられるよう、知識だけでなく態度も含めた人間性も高めていかなければならないと強く感じました。

現在、私は、専門学校で CT と救急医学概論の授業を担当しています。今日の講習会で学んだことを活かし、『将来は絶対救急に携わりたい!』『救急は面白い!』と感じてくれる学生さんを一人でも多く輩出できるような授業ができるよう頑張りたいと思います。

今回、長時間の講習会でしたが、運営スタッフの方の細やかな気配りが本当に素晴らしいと感じました。受講者が迷わないよう会場案内の張り紙、昼食マップの作成、ブラインドから差し込む日差しが受講者に当たらないよう細かに調整されているのを見て、救急医療の真髄を垣間見た感じがしました。運営スタッフの皆様ならびに講師の方々に心より感謝申し上げます。

平成 30 年 8 月吉日

